

浜松城天守門

江戸時代の本物に迫る城郭復元

見せる

地上に姿をとどめていない浜松城の建築物や一部が崩れた土塁の価値は、来訪者にとってわかりにくいものになっている。その価値を正確に伝えるための積極的な整備を行った。

守る

「守ること」こそが文化財への最良の配慮である。本質的価値のある石垣、土塁、地下遺構、遺物を保護する整備レベルを選択した。

学ぶ

櫓そのものが展示物であるとの考えに基づき、体験学習施設として常時一般公開している。



復元した鯨瓦



櫓の小屋組み

深礎杭：直径1m
深さ8m



人力で掘削した基礎杭の孔

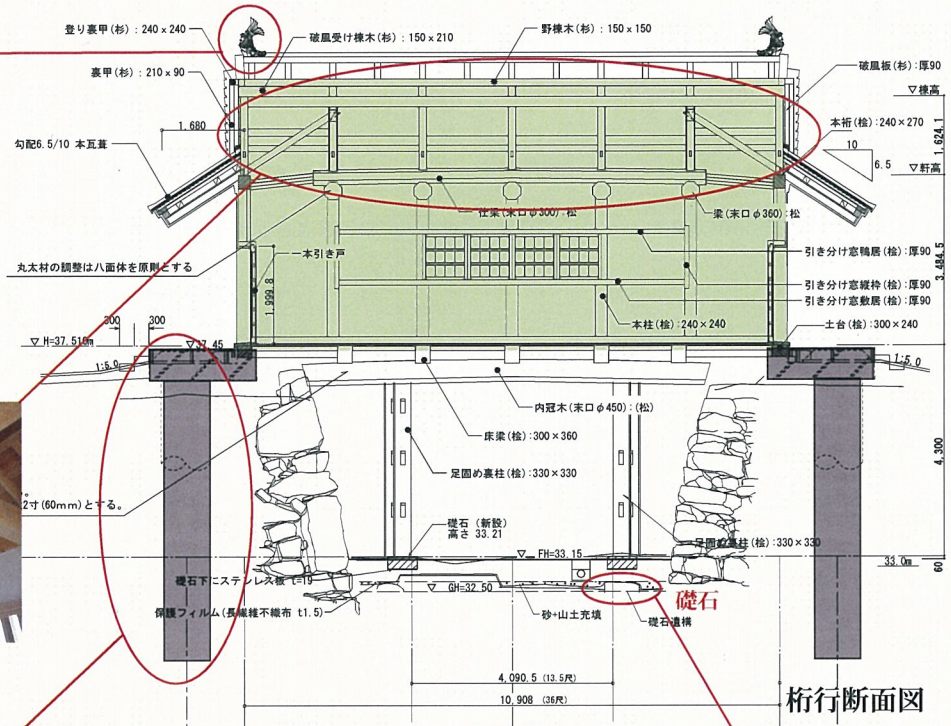
石垣は、現状の保存を第一に考え、積み替え、修繕は行わなかった。天守門の荷重は土塁内に設置した杭で支え、石垣に負担がかからない構造とした。杭孔の掘削は、石垣に影響が少ない深礎工法を採用した。



櫓の出入り口前に杭を設置



発掘調査で露出した門の礎石
礎石に直接荷重がかからないよう、保護盛土して、新しい礎石を据えた。



桁行断面図